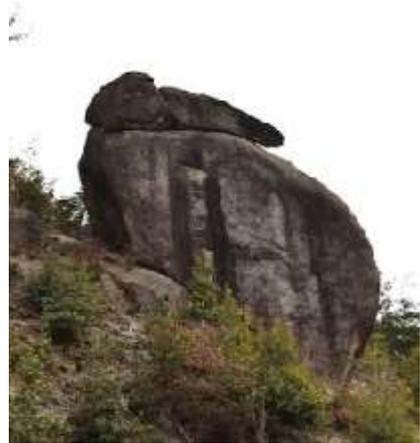


もっと知ろう “陶”

11. うさぎ岩

大川十三塚の交差点から東南方向の山を見ると中腹に、確かにうさぎの形をした大岩が見えます。

明治 14 年に猿爪宝昌寺、大川林昌寺の総本山である京都妙心寺の管長荻野独園（どくおん）氏がこの地を訪れた際、うさぎ岩を見て漢詩を詠まれました。（下記）



幾多注目夕陽山

今見巖頭玄兔座

李広神箭不等閑

曾聞石兔臥林間

停杖属目、偶然或野唱

有兔岩恰如聳耳之状

大川村山上、

漢詩ですので私には意味がよく分かりませんが、小木曾茂博著の「すえまち むかしこぼればなし」に、その要約が載っていました。

それによると、「山が背後に夕陽を受けて、その岩の形がまるで黒いうさぎが座っているような格好に見えるので、私はふと昔この辺りを神の使者として治めていたという石のうさぎの伝説を思いおこして、何度もその山を見入っているのです。」

荻野管長による書額が大川林昌寺本堂に掲げられています。下の写真がそれです。



うさぎ岩に関する昔話は、「月から降ろされたうさぎが、満月の夜に月に帰ろうとしたが、夜が明けてしまい岩に成ってしまった。」という話しの他に、神の使者という話しもあったのですね。

うさぎ岩への登山道は、街づくりの方たちにより整備されており、世界一の茶壺から約 20 分で登ることができます。3 月末になれば山のこぶしを楽しむこともできます。

岩は目測で周囲 30m、高さ 6m ほどで、登山道途中のビューポイントからの眺めは、うさぎ岩もさることながら十三塚方面の眺めもなかなかのもんです。もっともっと誇っていいと思います。まさしく陶の大切な資源です。

④現在、岩の麓が崩れやすくなっています。麓まで近づくことなくビューポイントから眺めてください。